

令和7年度 学校重点目標・評価票

※評定・・・A=「十分達成できた(85%以上)」 B=「おおむね達成できた(70～84%)」  
C=「あまり達成できなかった(55～69%)」D=「達成できなかった(55%未満)」

		年度当初	年度末	
学校	重点目標	目標達成の具体的方策	年度末評価	評定
学校全体	○主体的に学びを重ねる児童生徒の育成 ○自己の能力や可能性を最大限に発揮して、学びを積み重ねる態度や能力を育成する。	(1)授業をはじめ学校生活において、一人一人に応じた教育実践の場面設定を行う。 (2)研究テーマである「自立活動」と関連付け、実践をもとに検証する。	本校研究とも関連付けながら取り組むことができた。研究授業では、対象生徒の自立活動について簡素化した流れ図をもとに、3年後もしくは各部卒業後に期待する姿を「目指したい姿」として優先的・重点的に取り組む課題を「中心的な課題」として、各教科等との関連を明らかにして取り組んだ。今年度は一定の成果が見られたと感じているが、実践してみて分かった課題を克服できるように来年度継続して取り組んでいく。	B
学部	重点目標	目標達成の具体的方策	年度末評価	評定
小学部	○的確な実態把握に努め、個に応じた目標を設定し指導内容や指導方法を工夫する。	(1)小学部の研究と重ねて取り組む。 (2)発達検査や学習習得度確認表などの研修を行い、個別の指導計画や授業づくりに反映させる。 (3)学年会を通じて、目標設定や指導内容、指導方法について教員間で共通理解を図る。	部の研究については、各学年対象者を決め、3ステップの自立活動シートを作成しながら実態把握や中心課題を設定し、研究授業等で個に応じた支援の工夫に努めた。また、今年度より学習習得度確認表をツールとして、児童一人一人の「小学部3年生までに身に付けてほしい内容」や「卒業までに身に付けてほしい内容」を各学年での話し合い、個別の指導計画の目標設定や授業づくりにおおむね反映させることができた。しかしながら、職員によって捉え方が異なる点もあったので、部会等で共通理解を図りながら取り組んでいきたい。	A
中学部	○一人一人の実態や学びの履歴を踏まえた学習活動の充実を図る。	(1)自立活動の視点をもった実態把握表の様式を考案し、各学年1名を抽出して作成する。 (2)各教科で育成する資質・能力を意識して目標設定や評価ができるように、個別の指導計画の様式を改訂する。 (3)「学習習得度確認表」を基にした「卒業までに身に付けてほしい内容」の選定に係る話し合いを継続する。	各学年1名を抽出して実態把握表を作成することで、学年団の教員で話し合いながら、自立活動の中心課題を導き出すプロセスを経験することができた。「個別の指導計画」の「各教科等を合わせた指導」の欄を各教科等の視点で目標設定や評価ができるように様式を改訂したり、「学習習得度確認表」を基にした「卒業までに身に付けてほしい内容」の選定を継続したりしたことで、一人一人の実態や学びの履歴を踏まえて指導目標や学習内容を学年団で検討することができ、共通理解して指導にあたることができた。	B
高等部	○ボランティア活動などの機会を設定し、社会につながり、地域社会に貢献する意識を育てる。	(1)生徒会活動の一環として、毎月20日の朝、正門前で交通安全の呼びかけを行う。(生徒会役員・自立通学生徒) (2)観音寺駅と協力し、5月と11月に観音寺駅の花壇の植替え作業を行う。(農園班) (3)上記のほか、生徒からアイデアを募集し、生徒の主体的な取組につながるよう支援し、次年度以降も継続できる活動となるよう整備する。	令和6年度にはできなかった生徒会活動での交通安全の呼びかけを行うことができた。また、生徒会役員以外の自立通学生も登校後に参加し、たくさん的人数で交通安全の推進に務めることができた。令和6年に香川ビルメンテナンス協会の方々から教えていただいた清掃の仕方を校内に普及させることに努めた。また、JR観音寺駅の花壇の植替え作業は継続して行うことができた。今後は地域の美化活動にも務めていきたい。	B
		年度当初	年度末	
校務部	重点目標	目標達成の具体的方策	年度末評価	評定
教務部	○各教科等を合わせた指導のねらいを、教科の視点で捉えた個別の指導計画の様式案を検討する。	(1)各部の実状に応じて、年間学習指導計画の各教科等を合わせた指導のなかで取り扱われる教科のねらいを明確にし、個別の指導計画の目標に結び付けるよう、部会を通じて周知する。 (2)各教科等を合わせた指導については、教科の視点で捉えて記入できるよう、個別の指導計画の様式の検討を行う。 (3)円滑に作成できるように、作成手順についても適宜検討し、次年度に向けて個別の指導計画の手引きの作成に取り組む。 (4)系統性のある個別の指導計画を作成できるよう教育課程係を中心に校務部会で情報共有する。	中学部では、昨年度末に改定案を示し、部の意見を基に個別の指導計画と通知表の様式の一体化が図られ今年度から新様式での作成が試行された。県教委にも確認いただき、指導要録への添付代替が可能になった。小学部では、新様式を作成して主任会や部会で提案をし、R8年度試行に向けて計画を進めている段階である。また、この改訂に伴い、指導要録への添付代替に向けてR8年度からは通知表の裏表紙に所見欄を設け、個別の指導計画を各教科等、道徳、特別活動の指導内容のみにして部会で提案したところ、各部から意見等はなかったため、この様式での作成を進めていく。	A

校務部	重点目標	目標達成の具体的方策	年度末評価	評定
人権・同和教育部	○各部の児童生徒の実態に応じた人権学習を推進する。	(1)年3回の人権学習週間を設け、1・3学期は指導略案を作成して、各学年や学級で児童生徒の実態に応じた授業を行う。2学期は人権展の作品作りに取り組む。 (2)授業内容を考える際、過去の指導略案や資料等を参考できるように職員室の棚に置き、全教職員が閲覧できるようにする。人権・同和教育関連のDVDや書籍などを紹介、提示し、貸出しできるようにする。	・学部で学級やグループに応じて学習を進めてもらうことができた。人権学習期間中、地域の文化センターから書籍やDVDなどを借りて提示した。また、購入希望図書で人権・同和教育に関する絵本を購入してもらい、授業を進めるなかで児童生徒の実態に応じてそれぞれ活用してもらうことができた。 ・人権展では、「見つけようよいところ 語らうよ 夢を」のテーマのもと、一人1枚笑顔の写真を貼り頑張っていることや夢などを書いたカードを作り、全校児童生徒分掲示することができた。	B
研究部	○グランドデザインや各部の指導目標を踏まえ、自立活動の充実を図り、児童生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばす指導力や専門性を高めるために、校内研究を推進する。 ○教職員の資質や専門性の向上に役立つよう、他分掌と連携して研修を計画・実施する。 ※ICT活用教育推進委員会の下で、児童生徒に個別最適化された活用実践を促進する。	(1)グランドデザインの実現につながる全校テーマのもと、各部で研究授業、研究討議等を中心とした校内研究を進める。 (2)発達検査等によるアセスメントを実施し、指導計画作成の資料とする。 (3)他の学級や学部の授業を自由に参観し合う相互参観週間を設け、相互理解や学部間のつながりを深めて系統的な指導に生かす。 (4)専門知識や指導方法、教育的な視点を学ぶ機会として、スキルアップ研修会を実施する。 (5)各種研修会の案内や書籍紹介等、特別支援教育についての最新情報等の周知を行う。	・新しい全校研究テーマのもと、各部3本ずつの研究授業、討議会を実施することができた。発達検査についての研修を実施したことで、検査の手順や意義などへの理解が深まり、実態把握に役立てることができた。相互参観は、10分間の参観でもよいことを呼び掛けたことで昨年より参加人数が増えた。 ・スキルアップ研修では、電子黒板の導入を見据え、授業での活用事例を紹介できた。また香高研の自立活動研究会では特総研の大崎氏の研修を実施し、自立活動への新たな視点を獲得の機会となった。書籍や各種研修会の周知も適切に行うことができた。	B
メディア教育部	○本校の概要や各部の行事、ICT機器を活用した学習活動を紹介するホームページを更新する。	(1)各部の行事を中心としたホームページを随時更新するとともに、閲覧の啓発を行う。 (2)各部のICT機器を活用した学習活動を計画的にホームページに更新する。	今年度からメディア教育部員全員で協力し、本校の概要や各部の行事に加えて、ICT機器の活用についてホームページで情報発信している。各部のICT機器を活用した学習活動を計画的にホームページに更新し、メディア教育部員全員で取り組むことで、個々のスキルアップとモチベーションの向上につながった。令和7年度については、ホームページに合計14回のICT機器の活用事例を更新することができた。	B
生徒指導部	○あいさつ運動以外でも日常において自発的に挨拶ができるように引き続き取り組む。	(1)生徒会役員を中心に、生徒会活動を活性化し、明るく楽しく元気よく学校生活を送ることができるように役員改選、全校集会・放送、さわやかあいさつ運動等を行う。原則、毎月第1・3月曜日をさわやかあいさつの日とし、実態に応じた挨拶の方法を身に付ける機会を設定する。 (2)交通安全教室、携帯スマホ安全教室、消費生活講座、自転車安全教室、薬物乱用防止教室などの各種教室を適切な時期に行う。	・中学部・高等部の生徒会によるさわやかあいさつ運動を計画通り実施することができた。交通安全の呼びかけでは生徒会をはじめ、自立通学生の積極的な参加もみられた。あいさつ運動以外でも児童生徒が自発的に挨拶ができるように引き続き挨拶励行の積極的な指導を継続していく必要がある。 ・計画していた各教室を実施することができた。隔年実施の不審者対応訓練では、緊急マニュアルを基に警察署との連携でより専門的な指導を受け安全指導に結びつけることができた。	B
進路指導部	○卒業後の生活について考える機会となるように進路情報を提供する。	(1)進路ガイドを活用する機会を設ける。 (2)進路に関する説明会や講演会を計画的に実施する。 (3)職員対象の研修会を実施し、進路状況や進路情報を提供する。	(1)「進路ガイド」は、懇談、PTA座談会、進路説明会、職員研修などで活用した。学年が上がるごとに利用の機会が増している様子である。数年に一度の見直しを予定しており、今後も進路選択のヒントになるような情報を提供したい。 (2)①進路講演会では「卒業後の生活に向けて」と題して、事業所の運営に携わる方に講演していただいた。身近で具体的なお話であったので、保護者・職員ともに好評であった。今後もこのような機会を設けたい。 ②福祉の居場所説明会は自立支援協議会の理解と協力を得て第2回を実現することができた。今後は隔年開催となり、次回は令和9年度に実施予定である。よりよい場となるよう、関係機関との連携を密に取りながら準備を進めたい。 (3)職員研修では進路に関する情報提供のみにとどまっているため、研修後に感想や要望の簡単なアンケートを実施したい。また、令和8年度は中学部職員を対象とした事業所見学を実施予定である。	B

校務部	重点目標	目標達成の具体的方策	年度末評価	評定
保健部	<p>(1)感染症の拡大や事故を未然に防ぐことができるように、保健に関する啓発活動を行ったり、緊急時の対応に備えるための職員の研修を計画・実施したりする。</p> <p>(2)健康で衛生的な日常生活を送るために、健康の保持増進に関する保健教育や食育を推進する。</p>	<p>(1)感染症の予防と緊急時の対応</p> <p>①手洗い・換気等の感染症対策に関する啓発と、感染状況の情報を提供する。</p> <p>②嘔吐物処理手順やエビペン使用方法等の研修をしたり、部別で救急体制シミュレーションを行ったりする。</p> <p>(2)保健教育と食育</p> <p>①保健目標や給食目標、それに沿った一口メモ等を放送したり、ポスターを作成したりする。</p> <p>②児童生徒の実態に合わせたブラッシング指導や性に関する指導等を行ったり、教材の紹介やデータの管理を行ったりする。</p> <p>③たよりやホームページを利用して、保護者にも情報を届ける。</p>	<p>新入生に対応するためエビペン研修を早期に行ったり、心肺蘇生法研修がない年度なのでプール前に水泳学習時の救急処置の資料回覧を行うことで、緊急時への備えを充実させることができた。</p> <p>保健たよりでは感染症情報や性教育書籍紹介を、給食たよりでは献立レシピを掲載するなどの新しい取り組みも行えた。また昨年度の保護者からのご意見を受け、HPに給食写真を年数回アップもした。ただ、たより類は紙面配付からHPアップに変更になったため、デジタルがメリットになるような内容(カラー写真や動画埋め込み等)に変えていくことも必要である。</p>	B
教育支援部	<p>○校内及び地域の学校園のケースに寄り添った相談支援等を実施するとともに、特別支援教育に関する情報提供や研修支援等を行う。</p>	<p>(1)校内及び地域の学校園に在籍する児童生徒の多様なケースに対応する力を高めるために、校内研修の内容や方法を工夫する。</p> <p>(2)地域の学校園への連携訪問や相談支援等で指導内容・方法について助言・相談を行い、特別支援学校のセンター的機能の役割を果たす。</p> <p>(3)地域の連携協議会等に参加し、児童生徒に適切な教育的手だてを提供するために関係機関の連携・協力を得られるよう、情報提供や意見交換を行う。</p> <p>(4)ホームページやリーフレットの配付等を通じて、本校の取組や特別支援教育講演会、教育相談会の周知に努める。</p>	<p>校内研修のすっさくセミナーや特別支援講演会では、テーマを職員から募集し、関心のある内容で開催することができた。講師においては、校内教員や外部の先生に依頼することで校内資源を活用し開催できた。外部支援としては、連携訪問を2人体制で実施することができ充実した外部支援、内部の人材育成が行えた。今後も専任コーディネーターと協力し校内外の課題についてのサポートを行っていきたい。</p>	B
総務部	<p>(1)PTA組織が各行事をスムーズに実施できるよう役割分担をし、互いに協力してできるように支援する。</p> <p>(2)児童生徒の避難体制及び避難経路の確認・徹底を図る。</p>	<p>(1)PTA活動の内容、実施方法を検討して、リーダーや本部役員の役割分担を明確にする。総務の職員全員が行事を分担して協力する。PTAだよりやPTA新聞の発行やホームページ掲載などで活動内容を伝える。</p> <p>(2)車椅子や装具を使用している児童生徒の避難方法について共通理解を図ったり、避難訓練では、より実践的な設定をしたりし、状況に応じた避難行動ができるようにする。</p>	<p>(1)今年度は、PTA役員本部役員の協力を得て、座談会、進路先見学、環境委員会活動のPTA行事を予定通り実施することができた。その際の様子や参加者の感想をHPやたよりに掲載して、PTA活動について情報を発信することができたと考ええる。</p> <p>(2)防災訓練では、車椅子を使用している児童生徒の避難について共通理解を図る場を設けることができた。また、学習グループの異なる状況での避難や、放送機器使えない場合を想定しての避難、連絡用のホワイトボードの活用を訓練することができた。それぞれの職員が安全な避難について考え、確認する場を設けることができ、課題も見えてきたと考ええる。</p>	A

<p>小学部：的確な実態把握に努め、個に応じた目標を設定し、指導内容や指導方法を工夫する。</p> <p>どちらかという... 7.7%</p> <p>92.3% そう思う</p>	<p>中学部：一人一人の実態や学びの履歴を踏まえた学習活動の充実を図る。</p> <p>どちらかという... 31.6%</p> <p>68.4% そう思う</p>	<p>高等部：校内実習や現場実習、ボランティア活動の機会を設定して、社会生活に必要な技能や習慣を育成する。</p> <p>どちらかという... 22.2%</p> <p>77.8% そう思う</p>
<p>1. 個別の指導計画や通知表の改訂に向けて、様式の変更点について部会で提案する。</p> <p>そう思わない 1.4%</p> <p>どちらかという... 15.3%</p> <p>83.3% そう思う</p>	<p>2. さまざまな分野の資料や関連するDVDや書籍などを用意し、児童生徒の実態に応じた人権学習を行えるようにする。</p> <p>どちらかという... 26.4%</p> <p>73.6% そう思う</p>	
<p>3. 各部での校内研究や研究授業は、自立活動の指導や実態把握の視点を見つめ直したり、各教科での手立てや配慮を検討することで、授業改善の気づきを得たりする機会となっている。</p> <p>あまりそう思わない 2.8%</p> <p>どちらかという... 18.1%</p> <p>79.2% そう思う</p>	<p>4. 本校の概要や各部の行事、ICT機器を活用した学習活動を紹介するホームページを更新する。</p> <p>どちらかという... 8.3%</p> <p>91.7% そう思う</p>	
<p>5. 交通安全教室、携帯スマホ安全教室、消費者生活講座、自転車安全教室、薬物乱用防止教室などの各種教室から、新しい情報提供をすることにより、生徒が考えて行動するきっかけになっている。</p> <p>どちらかという... 36.1%</p> <p>63.9% そう思う</p>	<p>6. 進路に関する行事（実習や職場体験、職場見学、進路説明会、進路講演会など）や職員研修、「進路ガイド」による情報提供は、児童生徒の卒業後の生活について考える機会になっている。</p> <p>どちらかという... 11.1%</p> <p>88.9% そう思う</p>	
<p>7-1. 個別シミュレーション研修、年度初めの嘔吐物研修（動画視聴）、水泳学習時の救急処置研修（資料回覧）は、緊急時への備えに役立つ内容になっている。</p> <p>どちらかという... 9.7%</p> <p>90.3% そう思う</p>	<p>7-2. ブラッシング指導や保健衛生・食育ポスター作成、保健・給食放送は、保健教育・食育指導に生かされている。</p> <p>どちらかという... 33.3%</p> <p>66.7% そう思う</p>	
<p>8-1. 「個別の教育支援計画」の記入に関する情報や活用について手引きや職員研修、日報等で説明、周知する。</p> <p>そう思わない 1.4%</p> <p>どちらかという... 16.7%</p> <p>81.9% そう思う</p>	<p>8-2. 特別支援学校のセンター的機能の役割を踏まえて、地域の学校園等の特別支援教育に携わる教職員や関係機関に対して、特別支援教育講演会や連携訪問、教育相談等を通じて幅広く新しい情報提供を行う。</p> <p>分からない 2.8%</p> <p>どちらかという... 18.1%</p> <p>79.2% そう思う</p>	
<p>9. 車椅子や装具を使用している児童生徒の避難方法について共通理解を図り、避難訓練では、状況に応じて避難行動がとれるようにする。</p> <p>どちらかという... 23.6%</p> <p>76.4% そう思う</p>		

<p>小学部：生活の基礎となる力を育てるために、指導内容や指導方法を工夫し、子どもたちが分かってできる授業づくりに努めていると思いますか。</p> <p>どちらかという... 13.6%</p> <p>そう思う 86.4%</p>	<p>中学部：生活経験を広げながら、集団の中で生活する力を高める取組ができていますか。</p> <p>どちらかという... 32.4%</p> <p>そう思う 67.6%</p>
<p>高等部：校内実習や現場実習、学習活動や行事などを通して最後まで努力する態度を育成し、社会生活に必要な技能や習慣が身に付いてきていると思いますか。</p> <p>あまりそう思わない 2.5%</p> <p>どちらかという... 37.5%</p> <p>そう思う 57.5%</p>	<p>1. 「個別の指導計画」は、担任と保護者で十分に話し合い、子どもたちの実態に合った目標を立て、通知表や懇談等で適切に評価することができていると思いますか。</p> <p>あまりそう思わない 0.8%</p> <p>どちらかという... 23.1%</p> <p>そう思う 76.0%</p>
<p>2. 「人権だより・絆(きずな)」や校内の人権展、玄関ホールの人権に関する掲示物等は、人権学習の様子が分かり、人権について知ったり考えたりする機会になっていると思いますか。</p> <p>分からない 4.1%</p> <p>どちらかという... 44.6%</p> <p>そう思う 50.4%</p>	<p>3. 学校の授業や日常生活のなかで、ICT機器(タブレット端末やパソコンなど)を活用した活動が行われていると思いますか。</p> <p>あまりそう思わない 2.5%</p> <p>分からない 11.6%</p> <p>どちらかという... 32.2%</p> <p>そう思う 53.7%</p>
<p>4. 横断歩道や信号機を利用して行っている交通安全週間の交通指導や学校周辺での立哨指導、自転車点検などの交通安全に対する取組は、子どもたちが交通ルールを守って、安全に生活するために役立っていると思いますか。</p> <p>分からない 5.0%</p> <p>どちらかという... 28.1%</p> <p>そう思う 66.9%</p>	<p>5. 「進路ガイド」や「進路だより」(昨年度3月発行)、進路に関する説明会や講演会などは、子どもたちの将来の生活を考えるために役立っていると思いますか。</p> <p>分からない 6.6%</p> <p>どちらかという... 31.4%</p> <p>そう思う 62.0%</p>
<p>6. 「保健だより」や「給食だより」の内容は、子どもたちの健康・栄養管理に役立つ内容になっていると思いますか。</p> <p>分からない 0.8%</p> <p>どちらかという... 30.6%</p> <p>そう思う 66.9%</p>	<p>7. 「個別の教育支援計画」は、子ども一人一人の教育的ニーズに応じた支援を学校と家庭が連携して行うためのツールとなっていると思いますか。</p> <p>分からない 2.5%</p> <p>どちらかという... 20.7%</p> <p>そう思う 76.9%</p>
<p>8. 本校のPTA活動(座談会、進路先見学、環境委員会活動、講演会など)や親の会の活動について理解できていると思いますか。</p> <p>分からない 5.8%</p> <p>どちらかという... 42.1%</p> <p>そう思う 51.2%</p>	

## 学校評議員会における学校評議員の皆様からの意見

学校評議員の方々には、特に中学部の「生活経験を広げながら集団のなかで生活する力を育てる取組」について、研究授業の動画を用いて教科指導の様子を紹介しながら説明させていただきました。また、学校評価の結果や資料についても説明をさせていただき、ご質問やご意見、ご感想を伺いました。次年度以降の取組に活かしてまいります。

- 学校全体で、児童生徒の実態に合わせた教材研究や学校づくりが展開されており、よく取り組まれていると思います。
- 中学部の研究授業の動画を拝見しました。ICT（情報通信技術）の活用が推進され、デジタル教材等を工夫して作成されていることに感動を覚えました。
- 研究授業では、大阪万博を取り入れ、時事の話題を積極的に活用している点は大変よいことだと思いました。卒業後を考えたときに、時事の話題に関心をもつことが仕事間の従業員同士のコミュニケーションや休憩時間の過ごし方につながると思うので、感心しました。
- それぞれの授業での一人一人の実態に合わせた教材はとても素晴らしいと感じました。丁寧な教材作成は必要だと思いますが、業務のバランスには十分気を付けてほしいと思いました。先生方も一人の人間で、頑張りすぎて壊れないように願っています。
- 評価項目全体では、どの内容もA評価とB評価を合わせると85～100%に達しており、高く評価されていると思いました。学校を会社に置き換えた場合、最近では個人情報に関する取り扱いが大変難しいと感じています。保護者や教職員から意見のあった情報の取扱いやホームページでの情報発信などについては、保護者や児童生徒本人への丁寧な説明を続けながら理解が得られるようにしてほしいと思います。